

シンちゃんは、平成17年9月に保護され、ここで育ちました。保護当時の大きさは、人間の手のひらの半分くらいしかなく、体重は約150g。目だって開いていませんでした。

排便も自力でできません。ミルクを4時間おきに飲ませた後は、少し指をぬらして肛門付近をトントンと触り、ちゃんとできるよう、促しました。離乳食が始まるころには、すり潰した果物にミルクを少量加え、ちよつとずつ固形のものを与えたりしました。

飼育員 日誌

須坂市動物園



おかげですくすくと成長し、私を大好きになってくれたみたい。でもやっぱり、いつも一緒にいると、シンちゃんが「ひとり立ち」できないんです。心の距離が近くなりすぎて、私がいなくなるというイラする様子

気を配り飼育 やつとひとり立ち

がありあり。これでは絶対にいけない。考えついたのは、雄のお友達をつくることです。同居させたところ、今ではこの雄ととても仲良くなり、のんびり過ごすようになりました。



悲しいのは、お友達が老衰のために死んでしまったことです。それでもシンちゃんも私も成長したので、今ではほどよい距離感を保っています。

ハクビシンの平均寿命は15〜20年。シンちゃんは今年で13歳。少しでも長生きしてもらえよう、気を配って優しく飼育します。

(ハクビシン担当 中沢槇子)